



PDCAサイクルを駆動する情報の現状と課題解決

本提案に関連する事項

A 既に開局している若者や初心者にとっての魅力を一層高めるアイデア
B 若者にアマチュア無線の資格取得を動機づけるアイデア

情報の形態	昔	今	現在の問題・課題	解決の提言
無線雑誌、出版物	多数存在 CQ誌、初歩のラジオ、無線と実験、モービルハム、QST/QEX等々多数	激減！ ・CQ誌だけが頑張っている (TNX!) ・QST/QEX他ARRL出版物は健在	Push型情報源が不足 ・思いつけない気づきの機会減少 ・ARRLからは上質な刊行物が多数あるが、購読者は限定的	①みんなの広場的なハム・ポータルを構築 ・散在するWEB記事を集約して情報を使いやすい ・ポータルへの投稿とWEB検索を併用 ・商業的に可能な範囲で、プロの企画・編集力を開発・改良に発揮していただく ・雑誌とパラレルの存在に ・テーマ別に情報を集約 (テーマキーワードを用意して検索) ・経済的支援を前提としたメーカーの広告も可 (リーグ等の選択時に寄与) ・有志によるプレゼン資料の公開・流通
インターネット	存在せず	無線関連記事多数あり 昔以上に多数の、温度の高い記事、動画や解説も交えた分かりやすい記事も多い (Youtube等)	Pull型情報源 ・必要な情報は容易に手に入るが、想定外の気づきの機会が少ない (検索に引っかからない) ・膨大な情報が散在し、ナビゲーションが煩雑	A
クラブの勉強会	盛んに行われていた	今でも盛ん 老朽化して盛んでなくなったクラブも多いが	局所的	②JARL/JARD/CQ出版等の主催による講演会/勉強会 ・対象層の拡大 ・チャレンジテーマの提案 ・年2回程度、WEBINAR併用 ・できれば親睦会付き
ハム以外の人の視野に入る機会	比較的多数が出て、身近に目にする機会があった 親戚・知人、たまに放送媒体で紹介、モービル局等 昔はハムが主役のTV番組や映画があった	減少 若年層ではアマチュア無線など見たことも聞いたこともない人が多数 移動運用をしていると訝しがる人すらいる	言葉による説明はイメージを喚起せず伝わらない ・言葉 (無線機、無線通信、アンテナ、機器の自作、災害時通信等々) による説明は、もはや相手にまったく響かない	一般向け露出機会の有効活用 ③共用デモ局による直感的・視覚的なデモ/体験運用 ④鑑賞系ドラマあるいはアニメの制作 ⑤公衆の場での移動運用時に興味を持って来た人に配布する紹介リーフレットの無償提供 (移動運用テーマ限定で可、できれば刷物で)
ハムフェアや展示会等イベント	あり	ある	興味を既に持っている人だけが来場	⑥ハムフェア等の一般向け広報や入場優遇による来場の勧誘
QSO	ラバースタンプも多かったが、共通の興味ポイントが比較的技術面に集まっていたため、意見交換や学び合いの機会が多かった	設備の自作をする人が減少し、自分の電波の到達確認やQSO成立を目的としたため、ラバースタンプQSOが増加したことで会話の機会が減少		⑦ QSOの話題ヒント集の発刊 1stQSOでの豊かな会話の発展を支援 例) JCC#別の気候・地勢、観光名所、特産品、グルメ、地酒など、会話の糸口となる話題を提供

6. 参考情報 (任意)

- ・ 参考資料：資料名 (PDF ファイルを添付)
- ・ Web 情報：タイトル、URL